

秋山哲治名誉教授略年譜および主要著作目録

略年譜

明治四〇年二月四日 兵庫縣城崎郡香任町に生まれる。

大正一〇年四月 同志社中学入学

大正一四年四月 同志社大学予科入学、在学二年病氣のため中途退学

昭和一六年一二月 立命館大学専門学部法律学科卒業

昭和二〇年九月 立命館大学法文学部東亜法政学科卒業

昭和一八年四月 同志社中学教諭

昭和二三年四月 同志社商業高等学校教諭

昭和二四年九月 同志社大学学生部補導課長

昭和二五年四月 同志社大学法学部助教授刑法担当

昭和三〇年四月 同志社大学法学部教授

昭和三二年四月 同志社大学大学院法学研究科指導教授

昭和三九年四月 同志社大学法学部長〔昭和四一年三月〕

昭和四一年四月 同志社大学教務部長〔昭和四二年三月〕

昭和四二年四月 同志社大学学生部長〔昭和四三年三月〕

昭和四三年七月 欧米諸国の刑事施設を視察〔二ヶ月間〕

昭和五一年四月 同志社大学大学院法学研究科博士課程の設置に因りその指導教授

昭和五二年三月 同志社大学を定年退職

昭和五二年四月 同志社大学名誉教授

主要著作目録

著述 新刑事判例集(秋山編)

刑法における脅迫の概念

論文 刑事責任の構造

刑法における過失責任の特質と本質

刑法解釈における社会通念の意義

毀棄罪・隠匿罪

刑法における過失の違法性と責任性

「自然犯—法定犯」と「刑事犯—行政犯」の概念について

期待可能性における類型的附随事情の意義

包括一罪における一体的個性の観念について

「経済関係罰則の整備に関する法律」第二条にいふ「其の職務」の意義

職務の意義

商標法違反事件、併合罪か包括罪か

犯罪における方法、手段の刑法的意味

夜警の業務が刑法第一一七条の二の業務に該当するか

情状と違法性に関する考察

量刑の問題点

量刑における政治性と倫理性

騒擾罪

昭和三五年二月 啓文社

昭和三八年七月 有斐閣

昭和二五年一月 同志社法学六号

昭和二六年一月 同志社法学一四号

昭和二七年八月 同志社法学一四号

昭和二七年八月 刑法講座七卷 有斐閣

昭和二八年三月 同志社法学一六号

昭和二八年一月 刑法雑誌四卷二号

昭和二九年一月 同志社法学二五号

昭和三〇年五月 同志社法学二九号

昭和三一年一月 同志社法学三三号

昭和三一年五月 同志社法学三五号

昭和三三年七月 綜合法学一卷二号

昭和三四年三月 同志社法学五二号

昭和三四年五月 法学新報六六卷

昭和三五年一月 綜合法学二六号

昭和三六年二月 同志社法学六三号

昭和三六年一月 法学セミナー

使用者の刑事責任

未必の故意

死刑廃止論

刑法解釈における相当性の概念

詐欺罪と恐喝罪

有形偽造と無形偽造

文書偽造の問題点

詐欺罪における騙取金額

公文書の有形偽造と無形偽造

正当防衛における防衛の意思

政治裁判における法と政治

公文書の写真コピーの作成が公文書の偽造罪にあたる

された事例

昭和三七年二月 法学教室

昭和三七年四月 綜合法学五卷四号

昭和三八年一月 憲法問題入門

昭和三八年三月 同志社法学七八号

昭和三八年五月 刑法基本問題三七講

昭和三九年二月 刑法講座五卷

昭和三九年六月 ジュリスト学説展望

昭和三九年一〇月 刑法判例百選

昭和三九年一〇月 刑法判例百選

昭和三九年一〇月 刑法判例百選

昭和四七年八月 田畑教授古稀記念論文集

昭和五二年二月 判例時報八三五号